

Monthly Letter



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(平成27年度～令和元年度)
『地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する5大学連携事業』
福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀市立看護大学

まちづくり
分野WG

「和田de路地祭！」5大学の学生が団結して大盛況！

9月15日、今年で11回目を迎えた「和田de路地祭」。お祭りの運営に関わりながら、まちづくり分野WGでは「まちづくり実践WS」を通して、福井県嶺南に位置する、高浜町和田の景観等の魅力を発信し、継承していくための活動を行ってきました。

県内5大学が連携する体制になり4年目を迎えた今年は、過去最多49名の学生が関わり、路地祭を盛り上げました。泊まり込みでの作業を行ったメンバーはもちろん、当日参加できないメンバーもガイドブック作成などで積極的に関わり、一人一人が充実した活動を行いました。



長街宴



村橋邸装飾作成



路地班

路地祭では、今年から使わせていただくことになった村橋邸・カメハウス、また総合案内所として使用した大新旅館を拠点に、路地をまわることの楽しさを和田全体に広げようと頑張りました。路地で暮らす和田の日々を、各企画を通して体感してもらえたのではないかと思います。来年以降も「和田de路地祭」を通じてできた、学校をこえた絆を活かし、和田地区の素晴らしい景観、残してい

きたい民宿や民家を守っていくきっかけを提案できるような、学生企画を行っていきたく考えています。OBやOGも含めたメンバー全員に愛されるイベントとして「和田de路地祭」が続いてほしいです。

(和田de路地祭2019学生代表 市原弾さん<福井大学工学部4年野嶋研究室>より寄稿いただきました。)

看護福祉
分野WG

放射線看護研修会が開催されました！

看護福祉分野では、9月20日に【正しい放射線の理解】というテーマで、研修会を開催しました。看護学生や一般看護師など46名の参加があり、8割の方から、良かったとの感想が得られました。

内容は、まず「身の回りの放射線を正しく理解しよう！」という事で、放射線の基礎知識の講義に始まり、演習で身の回りの放射線量測定を体験し、自然放射線の存在を学びました。

次に、放射線災害がもたらすリスクについて理解しあうことを目指し、グループに分かれて、「リスクコミュニケーション」というワークをしました。

受講生からは「学びが深まった」「わかりやすかった」などの意見のほか「定期的にこのような研修があると、災害時に役立つと思う」という次につながる貴重な意見も得られました。



機材を使用したスクリーニング演習の様子

(敦賀市立看護大学 看護学部 看護学科 教授 高原美樹子先生より寄稿いただきました。)

「考福塾」で学生と塾生が考える、地域で夢中になれる働き方とは・・・

福井銀行、福井新聞社主催による「考福塾」が10月19日、アオッサにて開催されました。

講演では、福井大学の末理事が「学生の地域定着に向けたふくいCOC+の取組み」として、福井の地域が抱える課題とそれに対応すべく大学が連携し、地域の自治体や企業・団体等と協働で取り組むCOC+事業の概要について語られ、福井大学地域創生推進本部の竹本教授から「地域とアイデンティティの学び～地域志向教育を事例に～」として、事例を交えながら地域の中で生き生きと学ぶ学生の姿が紹介され、社会情勢の変化に伴って求められる人材像も大きく変化しており、教育手法も転換していかなければならないことなどが語られました。

また舟木COC+推進コーディネーターからふくい地域創生士®の紹介と、ふくい地域創生士®を含む参加学生らによる力のこもった自己紹介が行われ、塾生から「素晴らしい！」といった声が上がっていました。

その学生たちを交え「地域で夢中になれる働き方とは」というテーマで6つのグループに分かれ、活発な討議が行われました。発表では、人生を過ごす上でよりよい環境と考えたとき福井のような地方は選択肢となり得る数々の魅力があることや、地域との距離が近いというメリットが夢中の源泉になっていること、ワークライフバランスのライフに注目が集まるようになった今だからこそ地方にしかできない



考福塾の様子

い施策を打っていく必要性などが示されました。

考福塾ということで、塾生の学びに貢献することも重要な要素ではありましたが、参加した学生から「これまで福井県での就職という選択肢は考えてもいなかったが、今回の機会を経て、選択肢に加えてみようと思った。」「社会人になることは苦痛としか思っていなかったが、塾生の皆さんが楽しそうに語る姿を見て考えが変わった！」といったとても前向きな感想が語られ、総括で末理事がふれられたように、学生にとっては未来の自分を垣間見るきっかけになり、塾生にとっては希望と不安を抱えていたあの頃の自分をもう一度振り返るきっかけになったのではないかと思います。解決すべき課題は多数ありながらも、未来に希望が持てる考福塾となりました。



ふくいブランド
創出分野WG

「福井へしこサミット2019」を開催！

9月28日、JR福井駅前ハピテラスにて、第2回目となる「福井へしこサミット2019」を開催しました。

嶺南・嶺北に共通する食文化である「へしこ」に着目し、その可能性を再発見しようとするイベントです。学生によるレシピの提案、食品パッケージデザインの発表など関連活動の報告、へしこ生産者様4店によるへしこの特別販売などを行いました。翌日の新聞各紙による反響が大きく、今後の継続に向けて背中を押されました。これまで、ふくいCOC+「ふくいブランド創出WG」の活動として取り組んできましたが、これからも福井工業大学デザイン学科の主催として、川島研究室を中心に今後も活動を継続していきます。



へしこサミットの様子



(福井工業大学 環境情報学部 デザイン学科 教授 川島 洋一先生より寄稿いただきました)

編集後記

COC+の5年間の取り組みの総決算ともいえる様々な事業が12月に向け、県内各地で実施されます。今月のマンスリーレーターでは、嶺南・嶺北地区で実施された取組みを紹介しました。各イベントに企画・参加された学生・教職員の皆さまお疲れ様でした。私も考福塾のグループワークに参加し、同じグループの学生さんから「地域の第一線で活躍している方と話すことが出来て、これからの自分のことを考えるきっかけが出来た」と、話されているのが印象的でした。(小林)

